

工場見学会

ADEKA 鹿島食品工場／鹿島化学品工場

2024年9月6日(金)、株式会社ADEKAの鹿島食品工場／鹿島化学品工場(茨城県神栖市)を、奨学生10名、事務局3名の、合計13名で訪問しました。

昨年同様、当日は朝から好天に恵まれ、気温は32℃まで上がりました。

8:50 古河三水会会議室

(常盤橋タワー)出発

11:00 鹿島港内一周見学船「ユーリカ」乗船

世界的にも珍しい掘込式人工港の鹿島港を中心とした、日本最大級の工業生産拠点である鹿島臨海工業地帯を、海上から見学しました。

敷地面積が東京ドームの約300倍の世界最大級の鉄鋼生産基地、そして日本一の木材製造工場や穀物サイロ基地。それらの規模に驚いただけでなく、それぞれの工場の専用岸壁に停泊する全長300mを超える巨大な運搬船のすぐ横を航行し、その迫力に圧倒されました。

12:00 工業地帯の側にあるホテルのレストランで昼食

13:30 株式会社ADEKA 鹿島食品工場／鹿島科学品工場見学

食品工場長、化学品工場長のご挨拶の後、業務課長から工場の概要についてレクチャーを受けました。

白衣、白帽、ヘルメットを身につけ、入念な手洗いをして工場に入館しました。食品工場ならではの、衛生管理、安全管理の厳しさを、身をもって体験することができました。その後、化学品工場、分析設備を見学しました。随所で環境面、安全面への配慮がなされ、高い品質を維持するための努力が継続されていることを学びました。

最後の質疑応答では、奨学生の皆さんから積極的な質問がなされましたが、それにもひとつひとつ丁寧にお答えいただきました。

18:00 常盤橋タワー到着、解散

株式会社ADEKA 鹿島食品工場／鹿島化学品工場の皆様、お忙しい中丁寧にご対応いただき、本当にありがとうございました。

工場見学会感想文

東京工業大学
工学院修士 2年

鹿島港の遊覧船では、停泊している船が南米から来たとか、東南アジアから来たとか解説してくれて、世界規模の物流を感じてカッコいいと思った。飼料工場も海岸にあったが、なぜ海岸にあるのか分からなかった。聞けばよかった。ADEKA 工場では、水蒸気を輸送している配管が熱膨張を吸収するために意図的にクネクネになっていることを教えてもらった。前に工場地帯を散歩したときに見つけて不思議に思ったことだったので、ここで教えてもらってうれしかった。マーガリンの製造工程で材料を配合するときは、人が袋を開けて入れているらしかった。袋を開けるということが難しいから人力になっているのだろうか。一応袋のQRコードを読むなどして誤配合を防いでいるようだが、材料を袋詰めではなく一箇所に補充するようにすれば、自動化できるのではないだろうか。袋詰めでなければならない理由があるのかもしれない。消費期限とか。化学工場では、ドラムの一つ一つの部品まで取り外して加熱、乾燥を行っていて、いちいちそのような処理をするのと、劣化したものを取り替えるのとでは、どっちの方がコストが小さいのだろうかと思った。とにかく、研究室とは違う、企業の安全管理や規模を知ることができて、有意義だった。お昼ご飯も美味しかったし、みなさんと話せてよかった。

信州大学
工学部水環境・土木工学科 3年

古河記念基金様をご提供されている工場見学会に参加してきた。お邪魔した企業は古河グループの傘下企業である、株式会社 ADEKA 様で、茨城県の鹿島の港湾地域にそびえる広大なマーガリンやショートニングを扱う工場や化学品を扱う工場を視察させていただいた。さらには、港沿いに様々な工場が連なる鹿島港内を一周する見学船「EUREKA」にも乗船できる機会をいただき、概して非常に充実した見学会となった。

今回私が参加した動機は、もともと自分は食品や化学品メーカーに興味関心が薄く、自分の理解が行き届いてない範囲であったため、自分が知らない世界を知る絶

好の機会だと思い参加しました。参加して副次的に感じたこととして、今まで他にも多数の古河記念基金様の奨学生がいることは知っていましたが、顔を合わせて実際に交流する機会がはじめてで、同じ理系の学生ではあるものの、皆様の興味関心や研究分野が意外にも異なっており、皆様の研究に関する学術的なお話から、自分のまだまだ知らない世界をたくさん発見することができて、交流からも非常に多くのことを学習することができました。

全体を通して、特に印象的だったことは、私の専門である土木にからめて防災的な観点でみたときの、鹿島港付近の状況です。鹿島地方は地形的に北部は標高約30~40mの鹿島田市、南部の大部分は沖積砂層を主体とする、全体的に平坦な地形となって展開されているため、津波などにたいして脆弱な環境であるという所管を感じており、実際2011年の東日本大震災のときは、鹿島埠頭の営業所には高さ7mの津波が到達したと言われています。そのすぐ近くにある ADEKA 様の工場ですが、幸い震災当時はほとんど浸水はしなかったそうで、日々の防災訓練の成果により、当時は避難をアナウンスするシステムが壊れていたものの、避難場所に迅速に集合し、工場が安全に停止する防災システムが問題なく作動し、大きな被害や事故には繋がらなかったそうです。今後は南海トラフ地震が危惧されていますが、いただいた資料にも記載されていた通り、鹿島コンビナートでは24時間365日、災害を未然に防止するためのパトロールが行われているようです。我々が普段口にしたり、生活で活用したりするなくてはならないものを縁の下で支える ADEKA 様がどんな状況でも人々の生活を支えていくための覚悟があるように感じ、非常に好感をもつことができました。

その他にも書ききれないほど、たくさんの学びがあり、自分が学がなかったゆえ、たくさんの質問をなげかけましたがひとつひとつ真摯に向き合っていただき、工場見学会全体を非常に楽しむことができました。この場をお借りして、古河記念基金様、ADEKA 様、鹿島埠頭様に心より感謝申し上げます。

慶應義塾大学大学院
開放環境科学専攻修士2年

今回、私は初めて日本の工場を訪れました。鹿島港内を巡る見学船での体験も非常に印象深いものでした。内陸の都市で育った私が20万トン級のタンカーをこんなに間近で見るのは初めてのことでした。それらの船が世界中から集まり、日本経済を支えていることを実感し、感動しました。

ADEKAはBtoB企業であり、今回の見学会に参加するまで、その存在をあまり知りませんでした。しかし、この見学を通じて、ADEKAが長い歴史を持ち、製品の範囲が食品だけでなく、半導体材料に使われる化学品の生産ラインにも広がっていることを学びました。生産拠点は世界各地に広がっており、普段意識せずに使っている多くの製品が、私たちの生活に深く関わっていることを実感しました。

見学当日は非常に暑い日でしたが、生産エリアに入る際には、頭から足まで徹底的な防護措置が取られ、ADEKAが食品安全に対していかに真剣に取り組んでいるかを深く理解することができました。食品の生産エリアでは、原材料である油脂から各種食用油の製品、そして最終的なパッキングに至るまでの工程を見学しました。生産ラインの設計は見事に整備されており、その精密さに感心しました。また、ラインの自動化が進む中で、現場での人手が減少している様子も目の当たりにしました。さらに、工場が臨海工業地帯に位置しているため、東日本大震災の際の状況や、工場で実施されている災害対策についても学ぶ機会がありました。

最後に、今年も古河記念基金が工場見学会を開催してくださったおかげで、大変有意義な一日を過ごすことができたことに、心から感謝いたします。

山形大学大学院
理工学研究科修士2年

この度は、貴重な工場見学の機会をいただき、誠にありがとうございました。普段、見学する機会の無い貴グループの工場を見学することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。特に、食品工場の見学をしたのは初めての経験で、徹底した衛生管理の下、社員の皆様が丁寧に作業されており、その工程や大変さに感銘を受けました。現場では、会社についてや業務内容、製品に関して説明していただき、BtoBの企業は、普段私たちの生活の中で目にするものはほとんどありませんが、なくてはならない存在であり、これらを支える方々の存在を改めて実感しました。

他にも、社員の方々のやりがいや苦勞についてもお話を伺う中で、会社や製品に対する想いを感じ、私も皆様の様に社会に貢献できる仕事をしたいと思いました。

また、同じ奨学生と共に工場見学をすることで、交流を深め、大変楽しい時間を過ごすことができました。

重ね重ねになりますが、この度は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

横浜市立大学
理学部理学科4年

この度は、ADEKA鹿島工場見学会を企画していただきましてありがとうございます。私は食品・化学品メーカーへの就職を進路の一つとして考えていたため、この度のADEKA工場見学会は非常に貴重な機会となりました。

ADEKA鹿島工場の大きな特徴の一つとして、食品工場と化学品工場が同じ場所にあることだと伺い、実際に私はその広大な敷地面積に圧倒されました。そして、その中のいくつかの建物に入らせていただき、普段見ることのない生産ラインの見学をさせていただきました。特に印象に残っているのは、4階建ての建物の最上階から下の階に下がるにつれて食品が製造される一貫生産ラインです。数々の精密な設備とプロフェッショナルな作業員の方々が協働することで厳しい品質管理体制が整っていることを目の当たりにし、我々が普段口にしている食品の安全がこのように守られているのだと知ることが出来ました。

ユーリカ号での鹿島港見学では、製鉄所や工場、ま

たそれらの原料を積んだ大型船を見せていただきました。実際にオーストラリアから運ばれた鉄鉱石の山や、タイタニック号とほとんど同じ寸法の大型船を目にすることは、テキストからは得られない学びがありました。また、潮風に吹かれながら港内を一周することで都会の喧騒を忘れ心身ともにリフレッシュできたように感じます。

今回、実際に足を運び目で見ることで、工場の徹底した品質管理体制や安全な製品の提供を徹底する姿勢を学ぶことができ、今後の就職活動やキャリアを考える際に実践的な知識として活用していきたいです。また、道中のバス移動や食事の時間を共に過ごすことで全国各地の奨学生と交流し、新たな知識や刺激を得ることが出来ました。このような機会をいただけたこと重ねて感謝申し上げます。

東京都立大学大学院
システムデザイン研究科機械システム工学域
博士後期課程 1 年

株式会社 ADEKA 鹿島工場が見学先であると聞いたとき、私は「ADEKA=化学メーカー」の印象が強く、食品事業はサブの事業と勝手に思い込んでいました。しかし実際に工場を見学してみると、マーガリンや食用油脂、クリーム、ドレッシングといった食卓に並ばない日はない食品の原料製品を数多く手掛けており、化学品事業と並ぶ主力事業であるということを実感しました。これは、ホームページの閲覧や説明会で話を聞くだけではなく、実際に工場へ足を運んだことで、食品事業を担う工場の規模が、化学品事業の工場に劣らない規模であったことを目の当たりにして初めて理解したことでした。食品原料を製造する機械(窯)を、手が届くほど近くで見たことで、その大きさが担っている生産量にも驚きました。また、私が何より興味をもったのは、「安全」に対する取り組みでした。製品のレシピや材料をデータで管理し、各工程で QR コードの読み取りをすることで、間違いを防止する取り組みは、単純ながら非常に効果的な方法だと、素人考えながら感じました。このようなミス防止策や異物混入防止策の他に、ミスが起こった際の取り組みも徹底していると感じました。作業の様子をカメラで記録しておき、万が一の時に確認することで、ミスや問題の原因をすぐ探る、トラブルシューティングの観点からも「安全」が保

障されており、感銘を受けました。こういったデータ管理に加え、自動化や AI を適切に取り込むことで品質を保証しており、工場全体が「安全」と「保障」を、徹底したシステムとして成り立たせていると感じました。「安全」「保障」「品質」を見据えたシステムである ADEKA 鹿島工場の一端を、実際に足を運んで見るのができたのは、非常に有意義でした。心より感謝申し上げます。

東京工業大学大学院
物質理工学院材料系修士 2 年

先日は、株式会社 ADEKA 鹿島食品・化学品工場見学会に参加させていただき、誠にありがとうございました。このような貴重な機会を与えて下さり、大変感謝しております。

食品工場では、食品用マーガリン・ショートニングをはじめ、食用油の製造工程を間近で見学しました。食品工場に入場する際には、作業服の着用はもちろん 30 秒間の手洗いをするなど徹底された衛生管理に驚きました。さらに原料の確認には人の手で一つ一つ行っていることが特に印象的でした。

また、化学品工場では半導体用エッチングガスおよび層間絶縁体材料の製造工程および検査工程を見学しました。検査過程ではマイクロスケールでの不純物を見つけるために、高精度な装置さらには検査員の方のスキルによって品質が保たれていることを知りました。

さらには、鹿島臨海工業地帯の工場らが協力して、工場内の電気やガス・蒸気などを共有し、お互い密接な関連を持って生産活動を行っていることが非常に興味深かったです。こうした取り組みによって、日本の産業を支えていると知ることができました。

日本の食品・化学産業を支える工場の見学は、非常に有益であり新たな知識や洞察を得る有意義な機会となりました。

立命館大学大学院
薬学研究科薬科学専攻修士2年

この度は、工場見学という貴重な機会を頂き、誠にありがとうございました。私は、来年度から食品企業の研究職に就く予定です。そのため今回の見学で普段は見ることができない食品・化学品の生産工場を直接見学できたことは、大変貴重な経験となりました。

食品工場では、製造の各工程がどのように管理されているのか、また安全性や品質を確保するための取り組みについて、現場の方々から丁寧にご説明いただきました。特に、原料投入口付近を含む各所に監視カメラを配置し、製品の品質保証を徹底している点が非常に印象的でした。その他にも、原材料の誤投入を防ぐためのシステムなど、現場での緻密な管理体制を目の当たりにし、品質管理の重要性を改めて実感しました。

また、今回のプログラムを通じて、様々な分野を専攻している奨学生の皆様と交流することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。異なる研究分野のお話を伺えたことは、私にとって新たな発見や学びが多く、今後のキャリアを考える上でも何か大きなヒントを頂いたような気がしています。

今回の工場見学や奨学生の皆様との交流で学んだことや気づきを大切に、残り少ない大学での研究活動や来年度以降の企業での研究にも活かしていきたいと思えます。改めて、このような貴重な機会を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

東京大学大学院

農学生命科学研究科応用生命化学専攻修士1年

今回工場見学会に初めて参加させていただいたのですが、とても楽しい時間を過ごすことができ、誠に感謝しています。同じ奨学生でも普段話す機会のない他の大学の方と話すことができたので、自分とは違う環境の話が聞けてとても面白かったです。

特に印象に残ったのはやはり工場見学会で、今回はADEKA 鹿島工場の食品工場と化学工場を見学させていただきました。まず食品工場ということで少しの異物混入も許されないため、上から簡易的なコートのようなものを着用してシューズカバーをつけたのですが、これがとても暑くて、この状態で毎日作業する方々を尊敬しました。私たちが見学した工場は食品といっても原材料の工場

だったので、食品が目に見えることはなくイメージしていたような食品工場とは少し異なりましたが、DX化が進んでおりほとんど人がいなかったことには驚きました。化学工場も異物が混入しないようなシステムが細かく定められており、同じ機械があっても私の研究室とは全く違うことを思い知らされました。

また最後には ADEKA 工場や事務局の方からお土産をいただき、その細かな心配りに感動しました。出発前にも軽食をいただいたり、クルーズの際にもお土産をいただいたりしていたので、そんなにくれるのかという驚きとともに、私たちを楽しませようとしてくださったのが伝わってきてとても嬉しかったです。都合が合えば次回も参加したいと思います。今回は本当にありがとうございました。

長岡技術科学大学

工学部、物質材料工学課程、4年

この度はお忙しい中、このような見学会を開催して頂きありがとうございました。私自身は化学系の学科に所属しておりますが、研究内容は今回の工場で行っている事とかなり異なっているので、多くの学びがあった見学会でした。

今回、株式会社 ADEKA 様の鹿島食品工場及び化学製品工場の東地区で、食品工場ではパーム油からマーガリンやショートニングなどを、化学製品工場では半導体用のエッチングガスなどを作る工程を見学させていただきました。食品工場ではすべての原料にバーコードを貼って管理し、投入口にはカメラを付け、製品は人間の目でもチェックするなどしており、食品の安全や品質を維持するため、チェックの重要性を感じました。また、私は各製品、数種類のレシピで生産をしていると思っていましたが、500以上のレシピで生産していると聞き顧客のニーズに合わせた対応の大切さを知りました。

化学製品工場では ppq(千兆分率)単位で品質管理を行っているという聞き、半導体製造に求められる純度の高さを知るとともに、それに応える技術力の高さが伺えました。

加えて、今回の見学会では普段かかわることのない大学や学科、学年の人たちの話を聞くことができ、自分が経験したことのない話を聞け、刺激に満ちた見学会でした。

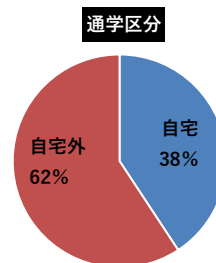
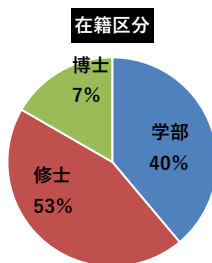
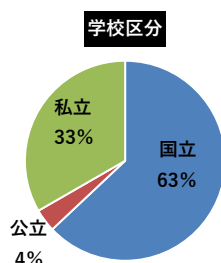
2024 年度奨学生アンケート結果

事務局では、翌年度の新規奨学生採用計画の参考とすることを兼ねて、毎年、奨学生へのアンケートを行っています。今年度のアンケート(10月1日～10月15日実施:対象54名)結果をお知らせいたします。

1. 2024 年度奨学生の概要

期初は54名でしたが、2名が9月に卒業し、現在は52名。

学年	日本人				外国人	合計	通学	
	国立	公立	私立	小計			自宅	自宅外
学部	2			2		2	2	
	3	2		2		4	1	3
	4	5	2	6		13	7	6
	5			1		1		1
	6	1			1		1	1
修士	1	5		5		5	2	3
	2	14		3	2	19	7	12
博士	1	4		1		5	3	2
	2	3				3		3
	3				1	1		1
合計	34	2	15	51	3	54	22	32



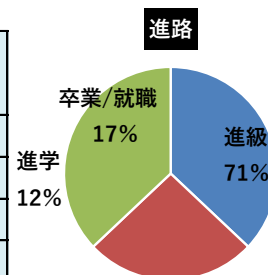
2. アンケート結果(日本人50名、外国人3名)

(1) 来年度の進路について

卒業→就職希望は20名のうち18名が内定済み。

進級・進学者34名のうち29名が支給継続希望。4名は支給期間満了。1名は学費のめどが立ち継続不要。

	日本人				外国人				合計
	進級	進学	卒業/就職	(内定)	進級	進学	卒業/就職	(内定)	
学部*	7	9	5	4					21
修士	5	4	13	13		1	1	1	24
博士	8						1		9
合計	20	13	18	17	0	1	2	1	54



(2) 就職内定先

三菱商事(株)、マイクロメモリジャパン(株)、江崎グリコ(株)、教員(2名)、大日本ダイヤコンサルタント(株)、セイコーエプソン(株)(2名)、NECソリューションイノベータ(株)、西日本高速鉄道(株)、金沢医科大学、大日本印刷(株)、国立研究開発法人産業技術総合研究所、東洋エンジニアリング(株)、(株)大林組、DOWAホールディングス(株)、西川計測(株)、鹿島建設(株)

(3) インターンシップについて

	経験		参加時期(重複あり)			今後の興味(除く内定者)	
	有	無	夏季	春季	その他	有	無
学部	10	11	9	2	1	14	3
修士	14	8	12	1	2	8	2
博士	5	4	2	0	3	6	3
合計	29	23	23	3	6	28	8

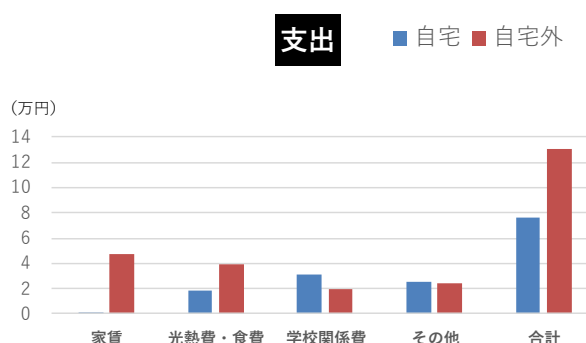
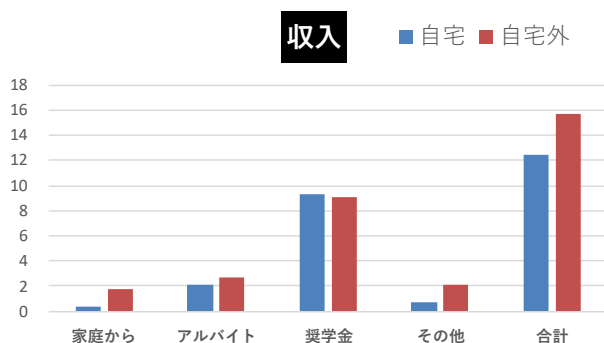
参加回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	合計
人数	8	5	5	5	3	3	29

経験者推移:2014年度11名、2015年度15名、2016年度17名、2017年度22名、2018年度28名、2019年度28名、2020年度29名、2021年度27名、2022年度25名、2023年度19名

(4) 生計について(奨学生1ヶ月の平均金額単位:円)

収入	自宅	自宅外
家庭から	3,810	18,000
アルバイト	21,190	26,935
奨学金	92,776	90,465
その他	6,667	21,290
合計	124,443	156,690

支出	自宅	自宅外
家賃	476	47,797
光熱費・食費	18,848	38,881
学校関係費	30,814	20,032
その他	25,667	23,977
合計	75,805	130,687



(5) 将来の計画(目標、希望等)

研究職:22名(重複:「エンジニア」2名、「その他」1名)

- ・化学系や食品系の企業に就職し、研究開発者として貢献したい。
- ・神経細胞やそれらで構成される回路の観点から脳機能の理解を深め、神経疾患の原因究明と治療法の探索や生物の神経回路構造をベースにした新規の AIアーキテクチャの考案を目指す。方法としては主に細胞や組織からの電気記録、蛍光を発する分子のイメージング、コンピュータシミュレーションを利用する。
- ・現時点では、昨今注目を集めている「量子技術」を活用した高感度なダイヤモンド量子センサの研究を行っているため、応用や社会実装の観点から量子技術を根幹とした新製品やデバイスの開発、あるいはそれらを支える光学部品などの開発に取り組められればと考えています。
- ・私は、強靱な等身大の人型ロボットを開発し、それを通じて人工知能(AI)の研究に貢献したいと考えています。近年、AI技術は急速に進歩し、知性の面では、人間とほぼ同等の回答を提供できるまでになっています。また、運動能力の面でも、AIの一種である強化深層学習を用いることで、人間の赤ちゃんが歩き方や物の持ち方を学習するのと似たプロセスを“仮想世界”で再現できるようになっています。これにより、ロボットは仮想環境内で歩行や物の操作を学ぶことが可能です。
- ・バリアフィルムやバッテリーパウチなどを扱っているので化学的な側面からそれらの材料の開発に取り組みたいと考えています。
- ・流体制御技術の研究開発及び社会実装に取り組み、輸送手段の省エネルギー化や高性能化に貢献したいと考えています。具体的には、現在大学院で取り組んでいる流体制御の数値的研究や実験的研究を就職先でさらに発展させることで、目標を達成したいと考えています。
- ・認知・睡眠分野の研究者として、QOL(生活の質)を向上させるような製品の開発および、動物実験に代わる代替実験系開発に携わりたいです。
- ・計算バイオメカニクスの分野にて、実験と計算の双方向から現象解明に取り組み、医療技術の発展に貢献したいと考えている。
- ・現在は自分の専門分野以外でも幅広く学習を進めており、学習したことをインターンシップなど実践の機会を通じて、社会に還元できるようなトレーニングをしています。将来的には、自分の興味のある土木・都市計画の分野の学習を進め、地域と環境のために、その地域の人々と共創するかたちで、レジリエンスなまちづくりを日本国内のみならず、海外のフィールドでも行いたいと思っています。
- ・研究職なり教育系の業種なり学芸員なりを色々考えてはいるが、いまいち決めきれていない。
- ・電気(モータ)を扱う仕事に携わりたいと考えています。
- ・有機金属化学についてアカデミアで研究を続けたい。
- ・化学分野の発展に貢献したいです。企業にて、より社会が豊かになる製品の開発に携わり、それに必要な素材の開発を担いたいと考えています。
- ・現在の研究テーマと関連した、半導体関連企業の研究職として従事したいと考えている
- ・金属触媒反応の力を利用し特定の臓器へ直接効果的に薬の生理活性分子を合成、患者に負担のない治療法を確立したい
- ・私は博士課程に進学し、コンピュータビジョン分野に貢献したいと思っています。
- ・CNN と Bi-LSTM による奥行き映像に基づく車両内の二次行動認識と空間拡張注意メカニズム研究論文発表
- ・将来的に、行動神経科学分野でアカデミアに残り研究を続けたいと思います。博士課程卒業後は、海外でポ

スドクとして研究をしたいと考えています。あまり積極的に公表してきませんでした。聴覚に障害を持ち、支援を受けながら学業をしています。障害者かつ女性であるというマイノリティでありながら、第一線で研究をする研究者を目指すことで、アカデミアのダイバーシティを広げ、研究の裾野を拡張することに貢献したいです。

- ・モノづくりを通して、環境問題に貢献できるような研究者になりたいと考えています。

- ・大学の研究職に就いて、材料の立場から社会の発展に貢献したいと考えています。
- ・企業の研究職への就職を検討している。
- ・材料分野における国立研究機関である、物質・材料研究機構の研究者となり、シミュレーションを活用した材料開発を促進したい。

エンジニア:22名(重複:2名)

- ・現在は自分の専門分野以外でも幅広く学習を進めており、学習したことをインターンシップなど実践の機会を通じて、社会に還元できるようなトレーニングをしています。将来的には、自分の興味のある土木・都市計画の分野の学習を進め、地域と環境のために、その地域の人々と共創するかたちで、レジリエンスなまちづくりを日本国内のみならず、海外のフィールドでも行いたいと思っています。
- ・地震工学を通し、日本の社会基盤をより強固にしたいと考えています
- ・全固体電池の実用化に貢献し、電気自動車の普及に寄与したいと考えています。
- ・ITの知識を活かして、社内で安全に活用できるLLMやAIを用いてDXを進めたい
- ・都市開発に携わる仕事に従事し、時代の変化に応じた、人々の暮らしや日々の営みを支える都市づくりに貢献する
- ・長大橋梁の設計
- ・学科で学んだ電気電子系の知識を生かせる職種や卒業研究で着手している電池に関連した分野や電気化学分野を希望しています。
- ・エネルギー分野のプラント設計及びプロジェクトマネジメント
- ・建設業界の意匠設計におけるイノベーションに携わる人間になりたいです。具体的には、建築設計のDX化をより広く、より根深く浸透させ、今後訪れるであろう深刻な

人材不足に対応し、将来の日本社会に意匠設計の分野から貢献できるような人材になることが目標です。

- ・IT 分野で人々の生活が便利になるようなシステム開発に貢献したい。
- ・商社としてエネルギー事業に携わり、東京のインフラを支えていく
- ・システムを通して、持続可能なまちづくりへ貢献したい
- ・生活インフラを支えるための設計者になる
- ・より便利で快適な高速道路サービスを提供することで、社会の発展に貢献したい。
- ・自動車メーカーに就職し、エンジンの設計に携わるエンジニアになりたいと考えています。
- ・現場で実際に構造物を建設し、社会に役立てたい
- ・航空機や人工衛星・ロケットといった航空宇宙に関する分野での研究開発等
- ・CNN と Bi-LSTM による奥行き映像に基づく車両内の二次行動認識と空間拡張注意メカニズム研究論文発表
- ・強いテクノロジーを用いて人類に貢献する。
- ・現在の自然言語処理×化学の AI 及び作成技術を活用して、創薬や新規材料探索に貢献したい。
- ・現在学んでいる航空宇宙工学を活かせる分野に貢献したいです。また、地元の大分県に貢献したいという思いもあります。

教員(除く大学):3名

- ・理科教育に携わり、中高生の理科学科目への興味・関心を高めたい。
- ・教員として生徒の将来を広げていく
- ・人に質問をするのを悪いことだと思いこんでいる日本人たちの固定観念を取り除いて、もっと生産的な議論ができるような国民性を作るための活動をしたい。

その他:7名(重複:1名)

- ・認定薬剤師の教育や研修を積極的に行っている高度医療病院、または研修が充実しており特に病院派遣制度のある全国規模の保険薬局に就職し、臨床経験を経て総合力を培い地域医療へ貢献する。
- ・研究の最終目標が災害リスクの評価であることと、今年一月に能登地震に自分が被災したことから防災分野に興味を持っています。
- ・コンサルティングや金融業界に興味があります。
- ・大学院では機械学習分野を学ぶことで現代社会における情報技術の進化に貢献できるスキルを身につけ、
- 将来的には IT 技術を用いて社会問題の解決に貢献したいと考えています。
- ・優れた技術を持っているにもかかわらず、資金や人員などのリソース不足のために思うように社会に還元できていない技術をこれまでに数多く見てきました。世の中のためになる研究に適切なリソースが割かれるための支援がしたいと考え、卒業後は投資銀行や VC で働きたいと思っています。
- ・金融機関に所属して金融知識を見につけたい
- ・企業の研究職への就職を検討している。

将来の活躍の場(重複:「大学」と「企業」と「自営/起業」1名)

○大学:7名 ○企業:38名 ○公務員:2名 ○自営/起業:3名 ○その他:3名

(6)「将来の計画」の実現のために是非やりたいこと(学生生活で)

語学力の向上

- ・英語力の向上
- ・外国語の資格を取る。
- ・英語の勉強に取り組みたいです。英語論文を読んで理解する効率を上げると共に、英会話能力も向上させたいです。
- ・TOEIC のスコアを 800 に上げたいです(現在 770)
- ・英語のコミュニケーションの訓練
- ・海外旅行で困らないようになるための英会話レッスン
- ・英語力の向上、特に TOEIC900 点を目指したい
- ・海外へ行く(英語力を鍛え、将来世界で活躍できるエンジニアになりたい)
- ・TOEIC730 点以上
- ・TOEIC 対策等を通して英語力の向上に努める
- ・英語学習
- ・積極的に資格を取得して語学力を向上させる
- ・英語の勉強をする
- ・読書やシャドーイングを通して、日本語と英語のスキルを向上させます。
- ・日本語を学ぶ
- ・英検取得
- ・国際的に仕事できるよう、英語力の向上。

インターンシップ・就職関連

- ・他の会社のインターン(秋・冬開催)も行ってみたいです
- ・インターンシップへの積極的な参加
- ・自分の目指したい将来像と職業を結び付け、その職業のインターンシップに参加すること
- ・インターンシップに赴き、実際に必要とされているものを理解する。
- ・インターンシップや合同企業説明会などの就職活動に積極的に取り組む
- ・就職希望先を明確化する
- ・エントリーシートの書き方を学ぶ
- ・インターンシップに参加
- ・インターンシップ先で様々な研究者や企業の人と話すことで視野を広げる
- ・企業へのインターンシップ
- ・就職説明会に参加する
- ・企業のインターンシップに参加し、実務的な知識を養う。
- ・大学院 1 年次でのインターンの参加

専攻分野の勉強関係

- ・海外留学
- ・卒業研究を通して医薬品や人の代謝に関する学識を深める。
- ・医療機関の規模や特徴から地域における役割と薬剤師に求められる素質を調べる。
- ・流体ソルバーの開発に取り組みたいです。これを通して、数値計算の理論を理解する能力と実際にソフトウェアを作って解く能力を身につけたいです。
- ・海外に滞在したいです。省エネルギー化は日本のみならず世界的な課題なので、その課題解決に取り組むものとして、海外の現状も見て体感しておきたいです。
- ・就活だけではなく、研究も計画を立てて進めていきたいです
- ・まずは、長野県塩尻市という地域で関係人口のオンラインコミュニティである「塩尻 DAO」という実践のフィールドがあるので、そこで、地域の人々の関係人口への理解を促進し、地域住民と共創するかたちで、塩尻市を経済的に活性化し、全国的な関係人口での人材シェアリングによる地方創生モデルを構築したいと考えています。
- ・納得できる修論を書き、可能であればジャーナル用に論文を執筆したい。
- ・板書や授業計画を作製し、即戦力として働けるようにしたい。
- ・研究に励み、良い研究成果を出す。
- ・LLM の研究(RAG、Agent)
- ・説明可能な AI の研究(XAI)
- ・橋梁に関する知識の吸収
- ・様々な橋梁に実際に足を運んで見学(実際目で見ると)
- ・化学工学の勉強
- ・2D 画像から 3DBIM モデルへの投影技術開発により、「意匠設計」から施工への期間の短縮を行うこと
- ・建築相談 AI の開発を行い、建築設計におけるエスキスの簡略化や作業効率化
- ・『人間が AI の通りに設計をするのではなく、あくまでも「部下が 100 人増える」という感覚を建設業界に流布したい』
- ・修士課程在学中に論文投稿2報
- ・研究留学
- ・土木について勉強する
- ・構造物を観察していく
- ・数字としてだけでなく、世界経済を肌で実感したいため、海外留学を行う。
- ・それまでにやり残した研究をやり終える。
- ・基礎となる数学の学習を継続して行う。
- ・数学的知識の中で、どれが現在作成中のモデルに活用できる知識かを整理する。
- ・大型機械の製造現場を訪問。

・研究留学

・競争的研究資金への応募

・米国での学位留学

専攻分野以外の勉強・自己啓発

・発された科学技術がどのように社会に役立てられているのか、意思決定の仕組みを書籍などで学習したい

・教員免許を取得しているので、「教育」という観点からセミナーやボランティアに参加してマネジメント力を養いたい

・様々な分野の科学技術に触れることで、すべての科学技術の結晶である人型ロボットの開発に活かしたいです。

・ロボットにはデザインのかっこよさが様々な観点から非常に重要であるため、デザインの勉強をしたいです。

・昔から国際協力の分野に強い憧憬を抱いており、多くの国でボランティア等の実践を行いたいと考えていま

す。できれば、インドやアフリカなどまだ生活インフラが十分に整っていない地域に足を運んでみたいと思っています。

・ポルトガル語や硬筆書写・筋トレなどに取り組み、素養を身に着けたい。

・専門分野だけでなく、幅広い分野に興味を持ち、教養を身につけること

・専門以外の知識をつける

・障害を持つ学生への合理的配慮の前例を作っていくこと。

・金融の基本的な勉強を行う。

・様々な分野の勉強をする

部活動サークル活動

・今年度立ち上げたバレーサークルの運営をやり遂げたい

・サークルの部長を務め、リーダーシップを培う。

・サークル活動で継続力と協調性を高める。

プログラミングの修得・開発

・プログラミングスキルの向上

・開発

・プログラミング言語の習得

・シミュレーションのアプリケーションの開発

読書

・専門外の書籍を読み込むこと

・ビジネス知識を養うための読書

運動体力づくり健康

・健康増進のため、運動する習慣をつける。

・人との繋がりを大事にしていきたいので体育を積極的に履修していきたい

・ロボットの強靱で軽量な肉体の開発には困難が予想されるため、開発者自身にも強靱で軽量な肉体が求められます。そのため、食生活の見直しと筋トレを始めて半年で7kgの減量に成功しました。ゆくゆくはランニングも始めたいです。

・ランニング(基礎体力向上のため)

・体力強化のため、トレーニングを行う

・体力の向上・維持のために週3日以上は外で体を動かす時間を設ける

- ・健康を維持するために、週 4 日以上筋トレまたはランニング
- ・定期的に運動して、健康を維持します。

コミュニケーション能力強化

- ・海外の方とも対等な議論が交わせるよう、英語コミュニケーションの熟練度を高める。
- ・国際系の団体と関わる機会を作り世界中の人々とコミュニケーションをとりたい
- ・社会に出て仕事をするにあたっても周りとの協力が大事だと考えられるのでアルバイトや研究室生活で積極的にコミュニケーションをとりたいと考えています。
- ・コミュ力鍛える
- ・人に会う
- ・OB・OG や地元の人々との人脈を作る
- ・海外旅行、学会出張で異文化に触れる機会を作る。
- ・他の研究者との交流を深める

資格

- ・資格勉強(危険物取扱者など)
- ・新潟日本酒検定銀に合格
- ・資格取得
- ・数検
- ・資格取得を目指し、いろいろな知識やスキルを習得する
- ・IT の資格を取得し、就職後に活かしたい。
- ・資格勉強(施工管理技士の免許が無ければ働けないため)
- ・資格取得を行い、理解度を確認する
- ・資格取得

旅行

- ・海外旅行に行って文化の違いを学びたい。
- ・学会に参加して、著名な先生と交流させて頂く機会を得る。
- ・視野を広げるための旅行
- ・国内、海外旅行を通していろいろな土地を知る
- ・海外経験
- ・海外を旅して視野を広げたい。
- ・旅行(知見を増やす目的と、社会人になってからの後悔をなくすため)
- ・47 都道府県すべて一度以上訪問する
- ・スマホを捨ててユーラシア大陸横断

アルバイト

- ・アルバイトを通して言葉使いやマナーなどを社会人になる前にしっかりと学びたいと考えています。
- ・アルバイト
- ・塾講師
- ・アルバイトでリーダーとしての経験を積みたい。
- ・アルバイトを行い、協調性を養う
- ・アルバイトでコミュニケーション能力を養う。

学会参加

- ・国際学会での論文発表
- ・学会への参加
- ・修士課程までに学会賞を国内学会、国際学会にてそれぞれ受賞する
- ・学会発表に積極的に参加し、プレゼンテーション能力を高め、人脈を広げます。
- ・国際学術交流活動への参加
- ・国際学会への参加などで、海外の研究者と積極的にディスカッションして多角的な視点を得ること
- ・学会等に積極的に参加したい

趣味

- ・海外旅行やスポーツ、楽器などの趣味に没頭するといった学生の間にはかできないことをやりたいです。
- ・自分の興味のあること(植物の分類・同定、読書)を継続的に行うこと
- ・趣味に熱中する
- ・趣味の幅を広げ、普段接する機会が少ないような方々と交流する

人脈交流

- ・学会や交流会に積極的に参加し、知見と人脈を深める。
- ・研究室のメンバーとの結びつきを強化
- ・若手の会や研究会への参加
- ・趣味やアルバイトなどでの人との関わりを大切にしながらつくる
- ・大学が主催しているオンラインの言語交換・文化交流イベントに積極的に参加すること。
- ・海外にワーキングホリデーなどで行って異文化を学びたい
- ・女性との日常的な交流

その他

- ・食を極める。(流行とニーズを把握するため)
- ・私は、地球で生きるすべての人にとって森は命そのものであると考えており、日本の衰退しつつある林業を再興し、人々が森の大切さに気づいてほしいと感じています。国土の7割が森林に覆われており、その40%が人工林である日本ですが、林業人材も森林自体も高齢化し、地盤の軟弱化、海への十分な栄養の供給の不足、CO2 吸収効率の悪化、生態系の悪化など様々な我々の生活に密着する課題を引き起こしています。そのため、この課題を解決するべく林業に関するあらたな事業を立ち上げたいと考えています。
- ・新聞を毎日読む
- ・社会人を名乗れるぐらいの最低限の身だしなみを整えられるようにすること
- ・学校ボランティア
- ・生活習慣の改善
- ・社会常識を身に着ける
- ・いろいろな経験をする
- ・自立した生活を送る
- ・学業・バイト・サークルの両立を図り、効率的に作業を終わらせる。
- ・貯金をする
- ・料理教室に通う
- ・ボランティアに参加したい

3. その他自由記述

- ・今年の春から博士後期課程に進学し、学部4年から所属している研究室で引き続き研究に毎日励んでおります。研究が忙しく、授業の手伝い(TA)以外にはアルバイトには入れていない状況です。このような状況の中で、古河記念基金様からの奨学金は、非常にありがたい存在であります。奨学金があるおかげで、研究活動にも息抜きにも力を入れることができいております。本当にありがとうございます。受給期間の最後の年ではございますが、何卒よろしく願い致します。
- ・5年間、大変お世話になりました。貴基金の支援のおかげで、大変有意義な大学生活にすることができました。あと半年間、卒業発表や国家試験対策など目標のためにやらなければならないことを一つずつこなしていきたいです。
- ・古河記念基金様のおかげで、修士課程でも研究に専念できております。その結果、研究の実力、実績、研究計画などが評価され、博士課程志望者のなかで倍率8倍の学振DC1に採択されることになりました！本当にありがとうございます！博士課程でも引き続き頑張ってお参りますので、今後ともよろしく願いいたします。
- ・お世話になっております。秋の気配を色濃く感じられるこの頃、古河記念基金の皆様はいかがお過ごしでしょうか。私は約半年間に及ぶ医療機関での臨床実習を無事終了することができました。薬学共用試験から臨床実習まであっという間に経過したように感じましたが、その時どきで学修に最善を尽くすことができたと思います。このように勉強に集中することができたのもご支援をいただいている古河記念基金の皆様のおかげであると心より感謝しております。現在は、卒業研究と就職活動、薬剤師国家試験の対策演習が開始し、相変わらず充実した生活を過ごすことができしております。徐々にアルバイトを再開しつつ、今後も学業と自己学習を頑張ろうと思います。
- ・先日まで2週間弱ほどフランスに滞在し、フランスの研究者の方や学生の方と研究内容についてディスカッションしてきました。
- ・日付までは確定していませんが、昨年度お伝えした富山大学への出向がようやく決まりました。1月末から3月までの期間を想定しています。新しい住所等が決まりましたら、速やかにお伝えします。
- ・転入学後の奨学金支援の継続を決定いただき、ありがとうございます。これまで以上に学問に励みますので、何卒よろしく願いいたします。
- ・昨年10月から今年9月まで、所属するサークルの部長職を務めていました。リーダーシップを発揮する良い経験を積むことが出来たと感じております。後輩に幹部業務の引継ぎを行い、今後はそのサポートをしていければと思っています。
- ・修士1年後期から、今年の8月にかけて就職活動と教員採用試験に取り組みながら研究を行い、充実した1年となりました。就職活動では思うようにいかないことも多くあり、教員採用試験では試験勉強を始めるタイミングが遅く、不安が多くありましたが、無事2つの自治体から合格をいただき、教職の道に進むことが決定しました。講師経験もないため、教師になるにあたって、初任者であっても生徒にとっては教師であることを自覚し、体力強化や教科指導の勉強をして参ります。
- ・母親が正社員登用され、家庭の経済状況は少し良くなりました。一方、その影響で日本学生支援機構の支援区分が1段階下がり、授業料は1/3から2/3に増額し、給付型奨学金の金額はおよそ半分に減額してしまいました。そのため、私自身の家計の状況は依然、厳しい状況です。加えて、これら日本学生支援機構の支援は学部生しか対象ではないため、大学院生となる来年度以降は貸与の奨学金を借りることで乗り切る予定です。

・無事に、大学院の試験に合格することができました。研究について、同じチームの人たちとあれでもない、これでもないという試行錯誤しながら研究しています。残り半年もないですが、よい卒研発表ができるように頑張りたいと思います。

・大学4年から研究活動を始め、機械学習モデルの1種である物理リザーバーの研究に取り組んでいます。この研究では、従来の機械学習では困難とされていた時系列データの解析を実現することを目指しています。物理リザーバーの特性を活かし、より高精度なデータ分類や予測を行うことで、将来的には異常検知や天候の予測など、IT 技術を活用した社会貢献を果たしたいと考えています。

・今年度も奨学生として採用していただき、ありがとうございます。奨学生としての自覚を持ち、引き続き真摯に学業やこれからの研究活動に取り組んでまいります。これからの進路といたしましては、大学院への進学を考えておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

・ご支援いただき誠にありがとうございます。ご支援のおかげで、卒業研究に集中することができ、11 月末の学会で講演できることになりました。これからも学会、卒業に向けて頑張っていきたいと思っております。重ねて感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

・昨年度から今年度に渡り、2年間、奨学生として採用していただき、誠に感謝しております。奨学金を受給する前は、深夜までアルバイトをしており、正直申し上げますと、学業にほとんど専念できておりませんでした。現在、畳み込みニューラルネットワークを用いて、周辺建物を変数として置いたファサードの自動生成プログラムを作成しております。「建設業界の DX 化」という大きな目標に向けて、就職した後も引き続き行いたい分野を修士という段階で執り行っているのは、貴財団のご支援の賜物でございます。来年度からは修了した後、建設会社の建築設計部に勤めますが、この2年間のご恩

は忘れずに、将来の日本の発展のために尽力してまいります。よろしくお願いいたします。

・残すところあと半年に迫る大学院生活になりましたが、大学院生活の中で満足に研究ができたのも古河記念基金様のおかげと言っても過言ではないと思います。修士論文の執筆に忙殺されている毎日ではありますが、最後の大学生活を謳歌したいと思います。

残すところあと数ヶ月ではありますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

・お世話になっております。いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。貴財団に経済的援助をしていただけたおかげで、アルバイトの量を減らすことができ、大学院の研究および研究室メンバーとの過ごす時間を増やすことができました。感謝の気持ちを忘れずに、研究および就職活動に励みたいと思います。

・いつも熱きご支援誠に有難うございます。貴財団のご支援のお陰で学業へ専念することができ先学期も満足できる成績を獲得する事ができました。心より感謝申し上げます。

・二年間のご支援に感謝いたします。来年博士課程に進んでからも引き続き努力し、優れた研究者になるよう努めます。

・学部4年生の頃から博士2年まで長きにわたってご支援いただき、ありがとうございます。おかげさまで日々研究に邁進することができています。博士課程も後半になって、博士論文の作成、国際学術誌への投稿に向けて研究を進めています。研究室では一番シニアの学生になり、研究室ゼミなどでは他の学生の手本となれるよう、今まで以上に気を引き締めて自分の発表や、他の発表へのコメントをしています。

博士課程を卒業した後の進路は行動神経科学の分野で研究を続けることですが、国際学会の機会に志望先の研究室の主宰者との面接を受けたりしたいと思います。貴奨学会からの奨学金の受給が終わっても良い報告

ができるよう日々励んでまいりますので、見守っていただけますと幸いです。

・奨学生として採用していただきありがとうございます。
8月に大学院入試があり、おかげさまで、無事合格することができました。大学卒業後は、大学院進学を希望しております。まずは12月の卒論審査に向けて頑張ります。引き続きよろしくお願い申し上げます。

・いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。

日々研究活動など忙しい毎日ではありますが、学業に集中して取り組むことができているのは、貴財団のサポートのために他なりません。

今後ともご支援いただけますと幸いです。

何卒よろしくお願い申し上げます。

・本年度は、支給決定書交付会、工場見学会ともに参加させていただきました。非常に有意義な時間となり、多くの奨学生と交流を深めることができました。来年度は博士後期課程への進学を予定しており、古河記念基金様にはこれからもお世話になりますが、奨学生としての誇りと責任を持ち、研究活動に取り組む所存です。

古河記念基金へのご支援のお願い

古河記念基金は、設立以来、延べ 3,400 人の経済的に困難な学生に奨学金を支給し、学業・研究の場を与えられるよう支援して参りました。

従来から古河グループの皆様には温かいご支援をいただいておりますが、2023 年度以降、個人寄付者数が大きく減少しております。

当基金は、税額控除制度が適用される法人として認定されておりますが、認定継続には、一定の寄付者数を確保・継続していく必要があります。

つきましては、これまで以上に、皆様の強く温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

◎寄付の申し込み方法

「寄付申込書」を以下のサイトからダウンロードいただき、事務局宛にお申し込みください。

「一般法人・公益法人等情報公開 共同サイト」

<http://www.disclo-koeki.org/08a/00991/index.html>



「寄付申込書」および「ご入金の確認」ができ次第、寄付金受領証明書(税務申告書類)等をご送付いたします。

当基金への寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

税額控除の詳細は、『公益法人 information』をご参照下さい。

https://www.koeki-info.go.jp/pictis_portal/other/zei_kojin.html



公益財団法人 古河記念基金

東京都千代田区大手町 2-6-4

常盤橋タワー(古河三水会内)

電話:03-6262-0804

FAX:03-6262-0806

メール:kinenkikin@furukawa-sansuikai.gr.jp